

奨励賞（神奈川県立青少年センター館長賞）

思い出の場所が世界とつながる日

鎌倉女学院中学校 3年 竹本 葵瑛

幼い頃よく遊んでいた空き地が、二〇二七年に横浜花博の会場になることを知らされました。昔、私が補助なし自転車に乗れるようになるために、転んでも痛くないからといつも両親に連れて行ってもらった、緑が生い茂る広大な土地です。その土地のうち約百haが花博の区域となるそうです。今でも自転車に初めて乗れた瞬間をよく覚えています。思い出のこの場所が、世界への発信地となるということにわくわくしました。

この夏休みにはちょうど大阪万博に出掛けて、たくさんの刺激を受けたこともあります。なおさら地元での博覧会という言葉に胸がおどります。大阪万博では、未来の技術や環境問題への取り組みを見て、これから世の中はこんなこともできるようになるのかと感銘を受けました。特に印象に残ったのは、「持続可能な未来」というテーマです。資源を大切にする工夫や、世界中の国の人々が協力して新しい解決策を考えているということを実感し、万博はただの展覧会ではなく、「みんながみんなの未来を考えるための場」などと強く感じました。それだけではありません。会場内外で働く多くの人の目に当たりました。みんな活気があり、丁寧に案内や誘導、清掃などをしてくれていて、とても快適に過ごすことができました。

そこで、国内だけでなく、海外から多くの人が集まるであろう会場に、近所に住む中学生の私ができることは何だろうと考えてみました。

花博に訪れた人たちが「この地域は自然を大切にしているんだ」と感じてくれたらとても素敵なことだと思います。まずできることは、地域の清掃活動に参加し、花博開催前に周辺環境を整えることだと考えました。また、ボランティアとして、来場者の案内やイベントのサポートを行うことで、花博を楽しく思い出深いものにする役割を果たせるのではないかと考えました。そして、近隣住民とのコミュニケーションを深め、花博に向けた情報共有や協力体制を築くことも大切だと思いました。

さらに、普段からの心構えとして、環境問題への関心をより高くすることも、花博を迎える市民として必要だと思います。気候変動の問題に対して、まず、日常生活での省エネルギーを心がけ、電気やガスの使用を減らすことが大切です。エアコンの温度調節などの節電を意識

し、移動の際には、車に頼らず、徒歩や自転車を活用し、遠出は公共交通機関の利用を心掛けます。また、食生活では神奈川県内の食材を選ぶことで、輸送時のCO₂の排出量を削減できます。リサイクルやプラスチック削減も重要です。ゴミの分別の徹底、当たり前になりつつあるマイバッグも忘れることなく携帯し、資源を無駄にしないようにします。こうした小さな行動が積み重なり大きな一步となって、世界の人々の手本となり、花博を訪れる人にとっても、未来の瀬谷区にとっても意味のあることになるのではないか。

私はあの自転車の練習から何度も挑戦し努力するということの大切さを学びました。花博の会場になる場所も、きっとたくさんの人々が挑戦や発見をする場所となるはずです。だからこそ私自身も地域の一員として、美しい緑に囲まれた地元の魅力を発信し、花博を成功させるために、積極的に参加し、未来の花博をより素晴らしいものにする力になりたいです。そして、お世話になったあの場所へ、二年後高校生になる私ができる、私なりの恩返しができたらいいなと思います。